

奥武蔵名栗 湯基入道草岩

昔、湯基入(トウギリ)の岩場(メインエリア)を開拓した際、同時期に開拓したのがこの道草岩である。リードとトップロープルート、そしてボルダールートの混合の岩場であったが、既に長い年月が過ぎ、苔が付き、周りも荒れ果ててしまっていた。今回、ボルダーとしてはちょっと高さがあるとは思われたが、ボルダーとして面白い課題になりそうなラインもあったので、全てのラインをボルダーとしてトライしてみた。また、道草岩までのアプローチ沿いにあった2つのボルダーも掃除して遊んでみたので併せて紹介する。

この周辺には他に、山の斜面等に幾つかの岩が見えたので幾つか確認してみた。あまり手頃なボルダーは見つからなかったが、いろいろと探せば出てくるのかもしれない。

今回この岩をトライするに至ったのは、先日名栗を通りかかり、大松閣の入り口付近で休んでいたライダーから、大名栗林道が通行止めになるらしいという話を聞いたからである。取り敢えず確認のために林道に入ってみると、ゲートが新しくなっており、そこには12月18日から施錠をすると書かれていた。理由としてそこには何者かによって以前あったゲートが壊されたためと書かれた札が下がっていた。しかし地元の人のお話では、この林道で今年バイクの死亡事故があり、それが大きな理由で、管理上施錠せざるを得なくなったらしい。

なお、登山などで奥の登山口まで入りたい人には、鍵を貸してくれるとのことであったが、岩場まではそれほど遠くはなく、30分程度である。

そんなことがあって、湯基入の岩場が遠くなるのが仕方がないなと思っていたら、何時か復活しようと思っていた道草岩のことを思い出した。しかし、ダメならゲートから歩いて行けばいいかなと考えていたので急いで行こうという気はなかった。ところが、最近になりギックリ腰になってしまい、できるだけ荷物を背負っての徒歩は避けたいので、施錠される前に行っておこうと思い今回トライしに行った。(この記録が公開される時点ではすでに施錠されている)

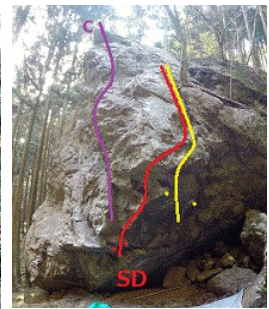
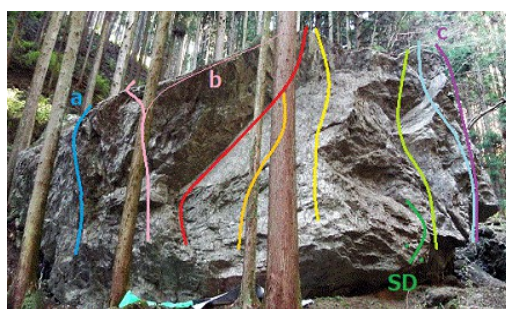
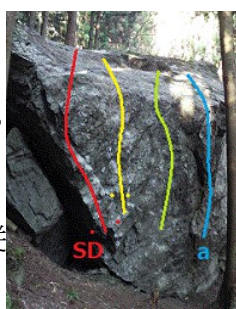
アクセスについては、大松閣から林道に入っていくと、施錠されたゲートがあるので、通行や転回の邪魔にならないように駐車をする。林道を登って行くと、右に棒ノ嶺登山道が小さな沢伝いに登っている。その登山道を入ると先ず沢の中にボルダーのA岩とB岩がある。さらに少し登ると、直ぐ道の横に道草岩がある。

なおメインエリアへは、登山道をさらに登ると右奥に岩が見えてくるが、一旦上の林道に出て岩場から下る。登ってきた登山道の途中から右にトラヴァースしていった方が早く、以前踏み跡をつけたが、今はほとんど消えてしまっている。

《課題紹介》

●道草岩

南面は、高さが4m程のフェイスで、左の3本が面白い。赤(課題名:アレ!)は左手はハング側のアンダー、右が縦ホールドでSDスタート、黄色(課題



左:南面 中央:東面 右:北面



名:バモス!)は左手アンダー、右手はピンチ気味の縦ホールドでスタート。黄緑(課題名:フォルツァ!)はフェイスの細かなホールドを繋ぎ、抜け口で左のしっかりしたカチホールドを使う。

東面については、a~cライン間の各ラインは緑ラインを除き、昔のリードラインである。ボルダーとしてトライしたが、ちょっとしたフリーソロ感覚である。終了点とプロテクションのアンカー(ハンガーなし)はそのまま残してあるので、トップロープとしてもトライできる。なお、ピンクラインはリップを右上するライン(b)であったが、フェイスをそのまま上に抜けて終了とするボルダーラインとした。

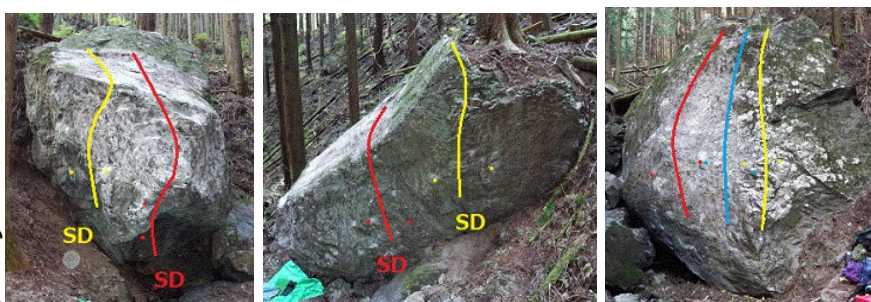
北面はハングで、課題は2本あるが、赤ライン(課題名:星回し)は左下からSDで取り付き、カンテ下で右に回り込んで黄色ライン(課題名:八百長)に合流する。黄色ラインはハング上のガバにジャンプして飛びつけると思われるが、足を上げてハング上のホールドをデッドで取ったほうがムーヴ的には面白い。ランディングの後ろに岩があるので、パッドの敷き方には配慮した方が良い。

●A岩&B岩

左:A岩下流側 中央:A岩上流側 右:B岩

登山道を少し入ったところにある沢沿いのボルダー。

A岩は下がルーフになっている岩で、下流側の赤ライン(課題名:マジコン)が難しくはないが、ボルダチックで面白い



B岩はスラブ状の岩で、赤ライン(課題名:生コン)と青ライン(課題名:セメントいてー)がそこそこ楽しめる。赤ラインの右手のスタートと青ラインの左手のスタートは同じホールドを使用する。